

労働災害防止に向けて

北海建物管理(株) 広島 隆志

労働災害は何故、起こるのでしょうか。

昔に比べるとヒヤリハット体験、危険予測などの安全教育も徹底されているはずです。

しかし、労働災害を抑制する事までに至らず労働災害は起きているのが現状です。

私は大きく分けて2つの原因があるのではないかと考えております。ひとつ目は「慣れ」です。

人は経験を積む事で成長します。仕事も覚え、培われた経験を活かして色々な事にも対応出来るようになります。

ある一定の経験を積むと慣れが出てきます、慣れは今まで得た経験から自信だけではなく過信となる事があります、業務に対して「軽視・油断」が現れる場合があります、「ちょっとぐらい大丈夫だろう」と基本的な事を省略したまま業務を進行させている時に重大な問題・被害（労働災害）に発展するのです。

では対策はどう行えば良いのでしょうか、私は「慣れ」に対しては「刺激」が有効なのではないかと考えます。

私達が行う日々の業務は基本的に変化の少ないルーチンワークが多いからです、その日の業務にちょっとした刺激（変化）を取り組むのです、例えば業務内に日々、目標設定などを設けさせ業務に取り組んでもらう、それに対して管理者が確認・評価を行う、これにより日々の業務に少し変化が生じ、適度な緊張感や意識を持ちながら業務に携わる事が出来ます、このように業務担当者だけではなく管理者又は会社全体

で防止に努める事が有効です。

ふたつ目は「職場の環境」です、労働災害はヒューマンエラー（人為的問題）が殆どだと思われれます。

しかし、職場の環境が労働災害を招く場合もあります、危険予知訓練で題材となる風景ですが、「ポリシャを持っての階段の昇り降り」バランスを失って転倒、階段を踏み外し転落、他の通行人との接触などの危険があります、殆どの人が危険だと十分に確認していますしかし、実行してしまう人がいます。

その理由に「職場の環境」が関与してしまう事があるからです、特に近年は不況が続く中どんな会社でもコストや経費削減は実施されています、その一環として過密業務や作業時間の短縮を過度に求めてしまう事があるかと思えます、このような環境が時に危険な行為をさせてしまう事となり、故を招く結果となる事も少なくないでしょう、この問題には会社全体での取り組みが必要となります。

世の中の影響で当たり前普通の事が適切に対応出来なくなっているのが現実です、こういった時こそ一丸となり管理体制の見直し、適切な人材の配置・確保が有効だと考えます。

世の中が厳しいから会社も厳しい、そして職場環境も厳しくなるでは悪循環です。

厳しい時だからこそ、ゆとりが必要ではないでしょうか。ゆとりある職場環境を築く、これこそが労働災害防止への一歩となる事でしょう。

一声かけて労災ゼロへ

(株)ベルックス 大谷 邦雄

現代の車社会における日本人の習慣として、車で行く人・来る人に対して「あまりスピード出すなよ」とか「気お付けて行きなよ、おいでよ」とか、特に真冬の北海道であれば、「道路滑るから気を付けろよ」などと声をかけることが多々あります。

私自身も、まだ若く（小生現在五十代）車の運転も荒っぽかった頃、実家に帰省する時などはよく両親に言われました。心の中では「いちいちうるさいな」などと思い、「分かっている、大丈夫だ」のような投げやりな返答をしていた記憶があります。しかし、今となっては、心配してくれていたからこそその言葉だったんだ、と感謝しております。

さて、この「一声かける」行動について考えてみますと、かける人と・かけられる人との間には、当然にある一定程度の人間関係が存在すると思います。それは親子・夫婦・友人・仲間・会社等であり、全く見ず知らずの人に対して、何かに付けていちいち声をかけることは余計なお世話になるでしょう。

また、かけた人とかけられた人の心情を察すると、かけた人は心配しているからであり、かけられた人は「心配してくれているのだ」と思うのではないのでしょうか。

我々ビルメン業界の現場で働く者同士は、同じ会社に所属するという一定程度の人間関係を形成しております。ですから、お互い心配する方・される方の関係があり、声をかけ易いのではないかと思いますそこで、作業を開始する前

にお互いに一声かけることにより、労災ゼロを目指すことを提案します。

具体例として、例えば清掃作業ならば「床が滑るから足元に注意しろ」とか「床の段差に気を付けろ」設備作業なら「脚立のぐらつきがないか確認を」とか「機械室は暗いからあまり急ぐな」など、それぞれの作業に取りかかる前に危険を予知して安全作業につなげる適切な一声をかけるのです。

この「一声かける」ことがなぜ安全作業につながるのでしょうか。例えば、「足元に注意しろ」と一声かけられた方は、滑らないか・つまづかないか・転ばないかと、自然に危険予知の思考回路が働き事前に危険を予知し事故を回避するようになると思います。また、声をかけられたにもかかわらず、注意を怠って怪我をしてしまった場合でも、「まずかったなあ」といった気持ちが強く残り、自然に安全行動を回避する心理作用が働くようになるのではないのでしょうか。

我がビルメン業界は、割合に労働災害の少ない業界ですが、ひとたび事故が起きれば、会社や上司・同僚に迷惑がかかります。お客様にたいする信頼を大きく損なうことは勿論、何よりも本人が痛くて辛い思いをしなければならないのです。

「一声かける」ことでお互いを思いやり心配し合う関係が深まり、より良い人間関係を築くことが出来ますそれが、働きやすい職場環境づくりになると思います。

安全意識の継承

北海道クリーン・システム㈱ 吉岡 淳平

私は、現在勤務する資源リサイクルセンターに入社して二カ月が経とうとしています。

採用募集時の業種は、産業廃棄物の収集運搬業務と廃棄物の分別作業業務でしたが、私は分別作業業務を希望して採用されました。

工場作業に従事する6名の先輩作業員の年齢は、67歳から58歳で、20歳の私から見ると、みなさん「お年寄り」ばつかりの職場でした。

毎朝、作業前のミーティングで、直属の上司が「おはよう」の挨拶の後に必ず「体調の悪い人はいませんか」と全員の顔を見渡して聞きます。私は、「お年寄りばつかりだから体調を心配しているのだろう」と思っていたところ、朝から腹の具合が悪かったので申告したところ。上司は私の体調を心配して「作業中でも我慢をしないでトイレに行くなり、病院へ行って診て貰うなりしなさい」「人の体は少しでも具合が悪いところがあったり、悩み事があったりすると作業に集中できず、意識が散漫になって事故に繋がる恐れがあるので、回りにいる人達も注意して事故を起こさせない様に気を付けて見てあげて下さい」との注意がありました。

私は、高校での部活動と似ていると思いました。チームワーク信頼は勿論のこと、なにより「チーム全員に気を配って声を掛け合う」という動作や感性が安全作業に繋がる一番大切なことではないかと感じました。私は先日、身もってヒヤリ・ハットを体験しました。その時の概要は、空カゴを両手に持った状態で足元に置いてあった台車に気付かず、その台車を踏んだ

ために足を取られて尻餅をついてしまいました。幸いにして空カゴだったので大事には至りませんでした。もしカゴにガラスくずや重量物が入っていたと思うと、今でもゾッとします。

後にこの件が月例のヒヤリ・ハット事例検討会での議題に取り上げられ、先輩達からは工場の床はビンや缶などが転がっているから常に「滑ったり、踏みつけてバランスを崩したりする」という意識を持って歩くことが必要との意見も聞くことができました。

私は、日々の作業の中で「意識を持って行動すること」「回りの人の動向にも気を配りながら作業をすること」そして、危険だと感じたら躊躇することなく注意したり、危険の芽を取り除くことが職場の安全に最も大切であることを学びました。

最後に、この職場での仕事を通じ先輩達の安全に対する知識や経験、意志の持ち方などをしっかりと覚え、先輩達がこの職場から立ち去った後も事故のない職場を引き継いでいかなければならない時代の変化に伴う事故防止を今後の若い世代に教えていくのも、私の役目と深く受け止め安全作業に取り組んでまいります。

お客様への快適な空間作りを目指して

北海道クリーン・システム㈱ 小林 奈央

私は現在、札幌駅に直結している大型商業施設の札幌ステラプレイスで清掃をしています。

多方面からのお客様に対応するため様々な業務をおこなっており、「マーメイド」という愛称で日々の業務に当たっています。マーメイドという名前は聞きなれないと思いますが、業務内容は十時オープンの際に入口に立ちお客様のお出迎えから始まり、館内の巡回清掃・ご案内・迷子や落とし物などの対応などがあります。別名「歩くインホーション」とも呼ばれ、お客様が心地よく買い物を楽しんでいただけるよう日々の業務に邁進しております。

館内には常にお客様がいるので、ごみや汚れだけに集中してはお客様への気配りが疎かになってしまいます。お客様から声の掛けやすい雰囲気を作る為に、館内を歩く際は「いらっしゃいませ」と声を掛けています。しかし週末になるとお客様が多くなるので、決められた巡回箇所を時間内に回れなくなると焦ってしまい、周囲に目が向かなくなりぶつかりそうになる事が何度かありました。私達マーメイドは、お客様が気持ち良く館内をご利用していただく事が使命です。

お客様との接触事故を起こさないように、曲がり角とトイレの出入り口付近では手前で歩く速度を落とし、直近ではなく膨らむようにして歩く事を心掛けています。また、清掃道具の置く位置には気を付けています。

このように自分の周囲には常にお客様がいることを意識し、お客様の安全を第一に考え、日々の業務に取り組んでいます。館内巡回をおこなっていると、お客様からお店の場所や道を聞

かれる事があります。

清掃の手順や巡回路などはすぐに覚えましたが、ご案内時の言葉遣いや立ち居振る舞いは難しく、一番苦労しました。

まず頭の中で自分が今どこにいるのか考え、聞かれた場所までの道順を思い浮かべてお客様が理解しやすいように伝える。一見簡単そうですが、こんなにも大変なことだと思いませんでした。マーメイドとして五ヶ月経った今でも的外れなご案内をしてしまい、落ち込む日もあります。

失敗談や疑問に思った時、早急に先輩や同僚に相談し、よりお客様に理解して頂く方法をディスカッションしスキルアップに努めています。お客様に不快な思いをさせないように、言葉遣いに注意して笑顔でお話を聞き失敗を失敗で終わらせずその経験を今後に生かせるようにしていきたいと思います。

トイレ清掃中にお客様から「若いのに偉いね」「若い子が掃除をされていて驚いた」などのお声を頂戴することがあり、とても励みになりました。私達の仕事を見ていて関心を示して頂けた時、マーメイドの仕事をしていて良かったと感じます。

清掃は汚い・暗い・臭いと世間では嫌われがちですが、私達マーメイドを見て、皆様の清掃に対する捉え方が変わっていただけたら嬉しいです。また困っているお客様に対して思いやりや親切心を持って接し、お客様の安全第一を念頭に置いたサービスを提供し、リピーターとして何度も来館していただけるよう安心してご利用できる空間作りに邁進して参ります。

15年目のヒヤリ・ハット（意識向上に努めて）

北海建物管理(株) 小笠原 八千代

私は、平成七年二月からホテル清掃従業員として働かせていただいております。

三人の子供たちへの学費援助が目的でした。

ホテルの清掃は水物と云われる様に、日々変わる内容のコンベンション、人の流れや、利用する人のマナーなどによる、さまざまな出来事に遭遇してきました。

その都度、いつも求められるのは、安全で、且つ迅速な対応です。仕事では、海上清掃、トイレ巡回清掃、バックスペースの廊下や階段、エスカレータ、エレベータの清掃など、通勤では、道路やバス、地下鉄の乗降時などによる、さまざまな出来事に遭遇してきました。慣れによる自己のすくなぬない中、数えきれない程のヒヤリハットを体験してきました。

そしてそれは、咄嗟に対応出来るものではなく、やはり普段からコツコツと積み重ねてきた「基本動作」と、毎年受講させて頂いたビルメン協会主催「清掃作業従事者研修会」での学習が、大切な現場で、私の意識向上へと役立ち、迅速に、そして沢山の働く仲間との連携プレーにより乗り越えてきました。

今年四月より、私たちは新たな仕事にチャレンジする事になり、不安を抱きながら現場へ向かいました。

次第に「ストレス」となり、夜も眠れず疲れを残す日々の連続でした。

朝、主人に励まされ家を出るのですが、脂汗と動悸、吐き気におそわれ、公園のベンチで「気持ち」を整え、又少しづつ仕事へと向かうのでした。そんな帰り道、車が向かって来ているのにもき気付かず、私は道路を渡ろうとし、

近づくエンジンの音にハットして咄嗟に後ずさりするという事がありました。

今思い出してもゾーとします。間違えれば、今の私は居ません。十五年間感謝の心を忘れず前向きに頑張ってきた私にも大きな節目となりました。

不安をかかえながらも一生懸命にチャレンジしている仲間の流す汗や、この職場で経験してきた全ての事を無駄にさせない為にも、当たり前前の事を当たり前出来る、生活の支えとなるこの仕事を精一杯誇りを持って熟す事。それがチームプレーにつながり会社の信用、信頼となる事と信じ、私を生かしてチャンスを与えて下さいました社員の皆様、そして、かけがえのない大切な宝物と気付かせてくれた仲間たちと、清掃従業員としての意識向上に努めて行くつもりです。事故防止は働く者として常に関心を持ち注意をしている所ですが、一番大切なのは、会社ちして大きな影響のある「職場環境作り」ではないでしょうか。

風通しの良い職場、笑顔の絶えない「おもいやりのある」職場。

十五年目に思う事は「仲間を認め気遣いながらの指導」慣れた仕事程油断せず、段取りの大切さや基本を守り仕事に集中出来る様心掛けるという事です。

これからも体調を把握しながら笑顔で挨拶、無事故を目標として頑張りたいと思っております。

安全に対する心構え

北海道クリーン・システム㈱ 気 仙 ゆかり

私の職場は、札幌駅直結の商業施設である「パセオ」の清掃業務を行なっています。パセオは札幌駅の地下と地上1階、併せて約2万㎡あり、男性23名、女性26名、総勢49名で、日勤は準社員を中心に、夕方以降は大学生や専門学校生を中心としたパート社員で業務を行っています。たくさんのお客様が利用する札幌駅という場所柄、いつ接触事故が起きてもおかしくはありません。作業時、歩行や用具類の移動時は常に周囲の状況に目を配り、お客様最優先で作業を進めています。

その成果もありこの2年間、私の職場では労働災害は発生していませんし、私自身も労働災害を起こした事はありません。だからと言って自分を過信せず、「明日はわが身」という気持ちを忘れずに仕事に取り組んでいきます。

より慎重に、より安全にと、仕事に取り組むようになったのは、やはり2年前に発生した労働災害が教訓にあるからです。

パート社員が倉庫内で清掃準備を行っていた際に、ダンボール箱にモップを立て掛けたまま他の資機材を用意したために、立て掛けていたモップが倒れて他の作業者の目に当たり、全治10日間の怪我ををしたのです。

このような事故が起きてしまったのは、安全確保の三本柱のひとつである「基本動作、基本作業の遵守」が守られなかった事が原因だと思います。基本動作を守り、本来なら床に寝かせて置くモップの柄を、ダンボールという不安定な場所に立て掛けなければこのような事故にはならなかつたはずです。

なぜ基本動作がまもられなかったのか、慣れた作業だからという気の緩みが原因だと私は考えます。仕事に慣れたベテランほど、「自分は労働災害なんて起こさない」と過信してしまいがちです、だからと言って安全確保の3本柱を疎

かにしてしまっただけでは事故を防ぐ事はできません。

私は、昨年の9月から清掃作業員に対し作業指示をする点呼執行業務を行なっています、その際に心掛けている事は、指示・伝達事項が正しく理解され伝わっているか、正しく作業が行われているかに注意を払い、業務を進めることです。

私の会社では、毎月1日・11日・21日を「安全意識を更に深め、事故の無い明るい職場づくりを推進するため」安全の日として「セーフティーワンデー」と設定し、より一層の安全作業を呼びかけています。

具体的には、口頭だけで呼びかけるのではなく、営業所内に掲示してある安全確保の3本柱や、安全の確保に関する基本方針を再度周知させ、安全意識を深めさせています。

このように定期的にセーフティーワンデーがあることにより、慣れからくる油断も防ぐことができていると思います。

現に、労働災害が起きてからのこの2年間は、無事故を継続しています。また、2年前の労働災害を風化させないように、新しく入ってきた仲間にも過去に起きた事故を伝えるようにしています。そうすることにより、作業に慣れた自分達も安全作業の大切さを再度認識する事ができます。

労働災害は、物や人が傷つくだけでなくオーナー様からの信頼も傷ついてしまいます。そのことを念頭に置き、点呼執行にあたっては①基本動作、基本作業の遵守②情報連絡と確認の徹底③感受性を高めた作業の実施の三本柱を繰り返し徹底しています。また、自分自身も事象が起こる前に予見できるよう日々研鑽し、安全で明るい職場づくりに取り組んでいきたいとおもいます。

● 平成22年度 労働災害防止標語 入賞者 ●

金賞

見直そう やったつもり 見たつもり 安全確認あなたが主役
協和総合管理(株) 加藤 剛

銀賞

事故1回 お詫び10回 手間100回 (株)クリーン開発 村田 まり子
基本作業 守ったあなたが 守られる
北海道クリーン・システム(株) 足立 ヒロ子

銅賞

見る角度 変えて気がつく 危険箇所 (株)ベルックス 松島 道夫
誰も知らない見ていない そんなときこそ 安全作業
協和総合管理(株) 堤 久子

佳作

ありがたいの 一言で つながる心 ゆとりの職場
北菱産業埠頭(株) 井田 栄子
イライラの心で発芽 事故の種 日盛ビル管理(株) 菅原 惇
慣れない作業は慎重に 慣れた作業は確実に
中央ビルメンテナンス(株) 鎌田 敬之
安全は ひとつひとつの積み重ね 小さな注意で大きな成果
中央ビルメンテナンス(株) 榎本 孝法
決まり事 守るあなたが守られる いつも元気に安全作業
(株)メルファム 山口 佳奈子
あせる気持ちに ひと呼吸 見過ごす 危険が見えてくる
(株)帯広公害防止センター 河原 忠
気のゆるみ 心の隙間に 事故の芽が
北海道クリーン・システム(株) 寺元 美代子
ヒヤリで済んだあの教訓習慣づけよう危険予知
北海道クリーン・システム(株) 土屋 英二
安全は ひとりひとりが 責任者
北海道クリーン・システム(株) 酒井 健二
見て触れて一声かけて安全作業 (株)北海道ダイケン 水野 美恵子
気をつけよう自分の作業想定内 周囲の状況想定外
中央ビルメンテナンス(株) 星野 正克
いつも心に予知訓練 皆で守ろう 無事故の誓い
北海道互光(株) 本間 武澄
大丈夫 それがまさかの 思いこみ (株)ベルックス 塩崎 篤史
リスク読め 事故には必ず 因子あり (株)ベルックス 北口 亮
安全は 任せず頼らず 自分から (株)ベルックス 森川 修
無駄と思うな再確認 たしか？だろう？は事故のもと
オホーツク美装(株) 澤崎 俊一
無事故の記録は過去のもの 初心に戻り再確認
協和総合管理(株) 三浦 供恵
安全は、指差し・声だし・見て・聞いて 東洋建物興業(株) 辻本 英樹
目配り・気配り・心配り される側よりする気持ち
日本クリーン北海道(株) 勝木 貴徳